



ネットワーク

2012.7.20 発行

No.6

自治労北海道本部女性部

道本部女性部は

7~8月



平和月間

「くらしと平和」についてあらためて学習しましょう!

道本部女性部では、「くらしと平和、民主主義を守り、政治闘争に結集する取り組み」として、7~8月を「平和月間」と設定しています。これを機に、地本、単組で反戦・平和、脱原発などの環境問題、政治や社会的な事柄に意識を持ち、学習を深める取り組みを試みませんか?!

反核平和の火リレー

青年部が例年主体的に取り組んでいる「反核平和の火リレー」。今年も7月17日から始まりました。単組の取り組みとして毎年走っている方もいるのでは?!(詳細は各地本・単組の青年部に聞いてください)。



平和月間の取り組みとしてリレーに参加してみませんか?!このリレーは1982年、ヒロシマの青年たちによって開始され、昨年は28都道府県で取り組みられました。リレー運動は「語り継ごう、走り続けよう」というスローガンに象徴されています。ヒロシマの心を語り「継ぎ」、平和の火を灯したトーチを手から手へ、「つなぎ」、みんなの反核平和を求める気持ちを心から心へ「結び」みましょう。

エコ活動

連合では家庭で職場でエコ活動として「連合エコライフ21」の取り組みを提起しています(<http://www.rengo.org/>参照)。ピークカットアクションや環境家計簿・環境日誌を活用したライフスタイルの見直しなど、この夏の節電の取り組みを通して、脱原発・節水・安全な洗剤の使用など、くらしに関わる身近な問題について学習しませんか?!



オスプレイ打電行動

連日、ニュースなどでも報道されていますが、オキナワの普天間基地に、墜落事故をたびたび起こしている「オスプレイ」が配備され、10月には本格的な運用が開始される見通しです。原因不明の墜落事故が続くオスプレイの配備は、沖縄の人々の暮らしを破壊し、生命の危険をもたらします。岩国基地やキャンプ富士での運用は基地の強化につながります。道本部女性部としても打電行動の取り組みを提起していますので、各地本・単組総支部での取り組みをお願いいたします。(取り組み期間は、8月24日(金)まで)。



反戦・平和の取り組みの学習をしませんか?!

各種集会の参加報告

7.16 さようなら原発集会

7月16日、大江健三郎さんから9人の呼びかけではじまった「さようなら原発1000万人アクション」は、東京・代々木公園で開催され、全国各地から過去最大の17万人が参加した。道本部も22人が参加。女性部から戸村女性部長、大友久美子さん（浜中町職）が参加した。

集会では、7人の呼びかけ人があいさつした。集会と併行して3つのコーズに分かれてパレード行進し、参加者はプラカードや横断幕、うちわなどを掲げて、「原発はいらない!」「再稼働を許さない!」「などとアピールし、元気づけ行進した。集会の詳細は、さようなら原発1000万人アクションのウェブサイトを(http://sayonara-nuk.org/)をご覧ください。



大友久美子さん(浜中町職)からの感想

代々木公園から恵比寿駅まで1時間ほどかけて「原発反対」「再稼働反対」等のシュプレヒコールをしながら行進しました。福島県の方々が行進前からシュプレヒコールをしていました。「命を守れ」「福島返せ」と。集会に参加してあまりの人の多さに驚きましたが、これだけ多くの方が反対運動をしているのだと実感しました。札幌でも10月に集会が予定されているそうです。ぜひ皆で「道民の安全・安心を守れ!!」と大きな声で原発反対を訴えていきましょう。

50周年記念大会

6月23日、札幌市・北海道教育会館で開催され、全体で65270人が参加。自治労からは、ノンフィクション作家・沖藤典子さんが「これでいい?介護保険制度、わたしらしく生きるために」と題して講演した。

沖藤さんは、現在、介護保険制度の複雑化していることや、実態と合っていない制度であること、介護職の労働負担について話した。また、高齢者の人権については「私たちの願いは経度で晩年を生き、一日でも長く我が家にいた



軽快にお話しされる沖藤典子さん。

い。そのためには生活援助が必要」「暮らし・生活を守ることはじめ、今後の介護保険に望むこととして軽度のうちから自宅生活を守る介護保険制度、安心のできる入院や退院支援、看取りの納得のいく指針の提示が必要だ」と述べた。



男女雇用機会均等法集会

6月2日、札幌市・ホテルノースステイで開催され、全道から200人が参加。自治労から5420人が参加した。

基調講演では「不平等社会日本を考える」子どもの視点から」と題し、名寄市立大学・短期大学

部の青木紀学部長より講演を受けた。「現在の子どもの貧困率は16%であり、貧困の中の虐待、医療を十分に受けることが出来ない状況、貧困である」と就学前にすでに差がついている、子供の福祉を改善するために日本は

自治労青年女性中央大交流集会

2012年7月6～8日、山梨県山中湖畔で「第18回自治労青年女性中央大交流集会」が開催され、道本部青年部から48人が参加しました(集会の詳細は道本部H



P(7月10日記事)をご覧ください) 戸村女性部長も本部常任委員任務で初参加!文化班担当として文化交流で「限りなき躍進」をステージで歌うなど、任務を果たしてきました。講演や分散会など、全国の青年たちの熱心な姿に感動したそうです。

来年は道本部青年部夏期交!



子供にもつとお金を使うべきだ」と話された。その後、5つの産別報告(Uゼンセン同盟・サービス流通連合・情報労連NTT労組・JP労組・労金労組)を行い、最後に連合北海道の渡辺男女平等局長が「一人ひとりが安心して働ける職場づくり、組織強化・拡大の取り組みに全力を上げよう」とまとめ、集会を終了した。